

### 学習内容報告書 3

|     |               |
|-----|---------------|
| 学校名 | 本部町立瀬底小学校     |
| 授業者 | 津嘉山朝翔（6年担任）、他 |

#### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

##### 1-1. 単元名

単元3「瀬底島の未来について考える」

##### 1-2. 学年

6年

##### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、学級活動

##### 1-4. 単元の概要

1学期に実施した単元1「豊かな体験を通して感性を磨くとともに瀬底島の現状等を知る」における体験学習やサンゴ学習、竹富小学校とのオンライン交流等を通して、感じたり気づいたり考えたりしたことをもとに、自分たちが理想とする未来の瀬底島を考えた。最初は個人で考え、それを3名グループで互いに質問したり助言したりしながら吟味し、修正を加えながらより具体化した。最終的には9名の想いをまとめて未来の瀬底島をデザインし「49（シーク）ルール」を完成した。シークとは方言で瀬底のこと。瀬底島の環境保全・制度・施設設備・ルール等をより具体的に考え、みんなが理想とする未来の瀬底島を完成させた。

##### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

今ある瀬底島の豊かな自然環境は当たり前にあるものではない。昨年度は好天に恵まれ行ったシュノーケリング体験であったが、今年度は初の線状降水帯が発令された数日後に行われた。事前学習の中で、赤土が流出している写真やその時の海の様子を目の当たりにして何かを感じている子供たちの表情があった。体験当日の海の様子は、サンゴこそははっきり見えたが、昨年度との違いにがっかりしている姿もあり、またサンゴにビニールやゴミが引っかかっている様子に心を痛めている児童も多かった。

そこで、環境保全等も含め、瀬底島を今以上に魅力的な島にするにはどうすればよいかを、一人一人が自分事として考え、発信し、行動できる児童を育むことを目指し、本単元を設定した。

##### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ① 海に親しむ 《学びに向かう力・人間性等》
- ② 海を知る 《知識及び技能》
- ③ 海を守る 《学びに向かう力・人間性等》
- ④ 海について発信する 《思考力・判断力・表現力等》

1-7. 単元の展開 (全 25 時間)

| 時<br>数 | 学習活動・主な内容   | 教師の指導 / 主な評価<br>外部連携 / 使用教材等  |
|--------|---|---|
| 4      | <p>☆今年度初めてつながりを持つ竹富小学校との交流学習に先立ち、竹富島についての調べ学習を行い、島についての知識だけではなく、そこに住む人々の想いもあわせて感じ取らせる。</p> <p>◎竹富島に関する個人新聞作成</p>  | <p>◎竹富島について焦点化したい個人のテーマのもと、インターネットや書籍等を活用して作成し、校内に掲示する。</p> <p>【総合(4)】②知る ④発信する</p>   |
| 2      | <p>☆単元1で行ったシュノーケリング体験等を通して知った瀬底の海の現状から、自分たちができることを考え行動する。</p> <p>◎自分たちができることを話し合う</p> <p>◎瀬底ビーチのクリーン活動</p>  | <p>◎自分たちにできることを話し合う</p> <p>【学級活動(1)】②知る ③守る</p> <p>◎瀬底ビーチのクリーン活動</p> <p>【総合(1)】③守る</p>  |
| 17     | <p>☆瀬底島の未来について考える<br/>(個人→3人グループ→学級全体)</p> <p>◎未来の瀬底島について、環境保全・制度・施設設備・ルール等を具体的に考え、合意形成を図り、想いを一つの形にする。竹富小との交流学習に向けて、スライド発表資料も作成する。</p> <p>◎マインクラフトで未来の瀬底島を作る。</p> <p>◎竹富小との交流会②③<br/>海洋学習成果発表会 (オンライン発表会)</p> | <p>◎それぞれが描く未来の瀬底島について話し合い、質問や助言等を踏まえて吟味し、より良いものを作り上げる。</p> <p>【学級活動(2)】【総合(10)】③守る ④発信する</p> <p>◎マインクラフトで未来の瀬底島を作る。</p> <p>【総合(2)】④発信する</p> <p>◎竹富小とのオンライン交流②③、及び成果発表会</p> <p>【総合(3)】④発信する</p> <p>外部連携：竹富小学校<br/>東大海洋教育センター 茅根創<br/>海の世界教育プラナー 浪崎直子</p> |
| 2      | <p>☆海洋学習 学びのあしあと作成・掲示</p> <p>◎1年間の学びをまとめ、成果物を体育館後方に大きく掲示する。(卒業式等で保護者等へ発信)</p>   | <p>◎1年間の学びの大きさと尊さの自覚を促し、後輩や保護者等に発信する成果物を作成させる。</p> <p>【総合(2)】③守る ④発信する</p>  |

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

- 1 一人一人がふるさと瀬底についての自分の考えや思いを持つ。
- 2 これまで探究してきたことを竹富小児童やサンゴの専門家に向けて発表する。
- 3 竹富小児童と共に、自分たちの島について再度考え、思いを伝え合う。

### 2-3. 本時の展開

| 主な学習活動 / 反応  | 教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）  |
|--|---|
| <p>☆竹富小との海洋学習成果発表会（オンライン）</p> <p>◎瀬底小の一年間の取組発表・質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を守りながら発展する方法を発表。</li> <li>・島の環境保全・制度・施設設備・ルール等、具体的に考えた理想とする未来の瀬底島を発表。</li> </ul> <p>◎竹富小の一年間の取組発表・質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の変化が生活に与える影響等を発表。</li> </ul> <p>◎「大人になっても島に住み続けたいか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の意見がチャットで飛び交った。</li> </ul> | <p>※両校の担任はコーディネーター役となり、児童の発表や質疑応答をつないだ。</p> <p>※両校とも ICT 機器をツールとして有効に活用し、チャット機能で各々の意見を発表した。コーディネーターが意見を取り上げるのが間に合わない程、白熱した議論が展開した。</p> <p>※最後の問いに対しても、将来の自分を見据えた建設的な意見が飛び交い、内容の濃い発表会となった。</p> |
|   |  <p>評価：④発信する 《思考力・判断力・表現力等》</p>   |

### 3. 今回の活動の自己評価

単元1で実施した豊かな体験学習を経て、6年生は本単元を実施した。特徴的な点は、環境保全の問題に終始するのではなく、様々な視点からふるさと未来を考えていったことである。ここ1～2年の間にリゾートホテルが建設されて観光客が激増していることに伴い、島のメリット・デメリットが浮き彫りになってきた。観光客も含めて島民みんなが住みよく魅力的な島にするにはどうすればよいかを、子供たちがそれぞれの考えや思いを持ち寄り、吟味を重ね一つの形を作り上げた。瀬底島の環境保全・制度・施設設備・ルール等をより具体的に考え、自分たちが理想とする未来の瀬底島を完成させ、竹富小学校の児童やサンゴの研究者に向けて発信することができた。

これから中学校に進学する子供たちだが、今後もふるさと瀬底を愛し島に誇りを持ち続けることを確信している。たとえ大人になって島を離れたとしても、常に自分事として島のことを考える人となることを期待している。

### 4. 今後の課題

今年度は海洋教育パイオニアスクール1年目ということもあり、海洋教育に関する計画は概要程度しかない状況からのスタートだった。そのため、エコツアー事業者で6年生の保護者でもある千野精一郎さんの力を借りて、体験活動をその都度一から計画し実践してきた。そこから出た気づきや考えをもとに、子供たちは探究活動を進めていった。正直なところ1年間の取組を通してやっと体系的なものが見えてきたのが現状で、今年度の報告書を作成しながら、現在、次年度に向けて海洋教育計画の作成を行っている。

2月に、海洋教育の先進地区であり町全体で海洋教育を実践している竹富町を視察訪問した。竹富町教育委員会や竹富小学校では取組説明に加え、海洋教育計画や教材をいただき、我が校の今後の取組に大いに参考になるものであった。また、古見小学校では海洋教育の学習発表会を参観し、保護者や地域と共に海洋教育を行い、ふるさとを愛する子供を育成していることを肌で感じる事ができた。竹富島ではエコツアー事業者で学校と連携して海洋教育を推進している大堀健司さんの話も聞くことができ、大きな収穫となった。視察訪問を通して、我が校の取組が頭の中で整理され、今年度のまとめと次年度の海洋教育計画を練り上げることができた。

今後は、今年度の実践を基礎に視察等で得たものを検討し、より良い海洋教育を推進していきたい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にございません。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。



# もうこわさないみんなの自然

未来の商店に必要な建物

海産診療所を作る

赤土流出防止対策

水産研究所

49ルール

みんなの考えをまとめてみた49ルール

未来の漁船の制度 理由・補足

1月 January

みんなの考えをまとめてみた49ルール

未来の漁船の制度 理由・補足

みんなの考えをまとめてみた49ルール

未来の漁船の制度 理由・補足

## 新聞コーナー

新聞コーナー

6年生の作文発表の感想

今年、6年生はたくさんみんなの意見や感想が聞けました。みんなの意見は「みんなが楽しく自然を遊ぶ場所を作りたい」「自然を大切にしたい」「自然を大切にしたい」「自然を大切にしたい」など、みんなが自然を大切にしたいという意見がたくさん聞けました。みんなの意見を参考に、自然を大切にしたい場所を作りたいと思います。